



## アジアン・アート・ビエンナーレ・ Bangladesh 2014 開幕。 日本からは Chim↑Pom が参加します。

Asian Art Biennale Bangladesh 2014

出展作家: Chim↑Pom  
キュレーター: 高橋瑞木

国際交流基金(ジャパンファウンデーション)は、12/1～12/31 まで、ダッカ市の Bangladesh シルパカラ・アカデミーで開催される現代美術の国際展「アジアン・アート・ビエンナーレ・ Bangladesh 2014」において、日本公式参加の主催者として日本人作家の作品を紹介します。

「アジアン・アート・ビエンナーレ・ Bangladesh」は、1981 年に初回が開催されたアジアで最も歴史ある現代美術の国際展の 1 つです。第 16 回目の参加となる今回は、キュレーターに高橋瑞木氏(水戸芸術館現代美術センター主任学芸員)をお迎えして、Chim↑Pom の作品を紹介することが決定しました。Chim↑Pom は今回、家庭用自動掃除ロボットを使った作品《下町のパラドックス》と、日本と Bangladesh の各地を訪れて制作中の新作映像作品《It's the wall world》を出品します。貴社媒体でのご紹介のご検討をどうぞよろしくお願いいたします。

### ■全体概要

会期: 2014 年 12 月 1 日(月)～2014 年 12 月 31 日(水)

主催・会場: Bangladesh シルパカラ・アカデミー(<http://shilpakala.gov.bd/shilpakala/#>)

### ■日本参加の概要

キュレーター: 高橋瑞木(たかはし みずき)(水戸芸術館現代美術センター主任学芸員)

出品作家: Chim↑Pom

主催: 国際交流基金(ジャパン・ファウンデーション)

Bangladesh ビエンナーレ(<http://asianartbiennalebd.org/>)

1981 年にアジア 14 カ国の参加を得て開始された現代美術の国際展です。主催するのは、Bangladesh 文化省所属の国立美術・舞台アカデミー「Bangladesh シルパカラ・アカデミー」です。ビエンナーレはこれまでほぼ 2 年ごとに開催されています。前回、第 15 回では、アジアを中心に 34 の国・地域から 224 名のアーティストが参加しました。

●主催者・展示に関するお問い合わせ: 国際交流基金 文化事業部アジア大洋州チーム (担当: 武田)

Tel: 03-5369-6062 / Fax: 03-5369-6038

●広報用画像・取材に関するお問い合わせ: 平昌子(TAIRA MASAKO PRESS OFFICE)

Tel: 090-1149-1111 / E-mail: [masako@tmpress.jp](mailto:masako@tmpress.jp)

## 作品介绍

Chim ↑ Pom は、今回2点の作品を発表します。

1点目は最先端の掃除ロボットが巨大な絵画を描く作品《下町のパラドックス》です。展覧会会場では、掃除用ロボットが、床掃除の代わりに赤や青、黄色のペンキで床を汚し(=絵を描き)、巨大な抽象画を描きます。本作はジャクソン・ポロックや具体美術協会の白髪一雄のアクションペインティングを参照していますが、行為の主体はもはや人間ではなく、人工知能を備えた掃除用ロボットです。Chim ↑ Pom は本作で家事労働と創作行為の差異、人間と機械の創造力の拮抗をユニークに提示しながら、現代社会やアートにおける人間性についてのパラドックスについて問いかけます。

2点目は日本とバングラデシュで制作中の新作映像インスタレーション作品です。本作はビエンナーレの壁をくりぬいてつくったジグソーパズルと、そのピースを日本とバングラデシュ各地の人々と交換する様子をおさめたドキュメンタリー映像から構成されます。この作品のジグソーパズルには市販のパズルのように見本となる絵柄は存在せず、Chim ↑ Pom が様々な場所から持ってきたひとつひとつのピースがそろうことで初めてそのイメージが浮かび上がります。美術館の壁をピースという単位で分解することにより、世界中のあらゆる場所の壁と交換可能になり、さまざまな場所と接続することが出来ます。また、美術館の壁は交換した先々で美術館の壁という役割から、交換された場所で新たな役割を与えられることとなります。

今回は日本とバングラデシュの様々な場所で壁からできたジグソーパズルの交換をおこなうことで、文化や言語、宗教の違いという壁を越える共感を導くアートの可能性を探ります。

## 作家紹介

### Chim ↑ Pom (チンポム)

卯城竜太・林靖高・エリイ・岡田将孝・稲岡求・水野俊紀の当時20代の6名が、2005年に東京で結成したアーティスト集団。時代のリアルに反射神経で反応し、現代社会に全力で介入した強い社会的メッセージを持つ作品を次々と発表。映像作品を中心に、インスタレーション、パフォーマンスなど、メディアを自在に横断しながら表現している。東京をベースに活動しながら、世界中の展覧会に参加、海外でもさまざまなプロジェクトを展開。近年はさらに活動の範囲を広げ、美術専門誌監修や展覧会キュレーションなども行う。著作に『Chim ↑ Pom チンポム作品集』(河出書房新社、2010年)、『なぜ広島空をピカッとさせてはいけないのか』(阿部謙一との共編著、無人島プロダクション、2009年)、『芸術実行犯』(朝日出版社、2012年)、『SUPER RAT』(パルコ、2012年)、『エリイはいつも気持ち悪い エリイ写真集 produced by Chim ↑ Pom』(朝日出版社、2014年)がある。(http://chimpom.jp/)

主な個展開催館(2013年～2008年):

岡本太郎記念館(東京)、パルコミュージアム(東京)、PROJECT FULFILL ART SPACE(台北)、丸木美術館(埼玉)、MoMA PS1(ニューヨーク)ほか多数

主なグループ展開催館(2013年～2009年):

<国内>

渋谷 PARCO(東京)、霧島アートの森(鹿児島)、東京オペラシティ(東京)、東京都現代美術館(東京)、森美術館(東京)、水戸芸術館(茨城)、金沢 21 世紀美術館(石川)、原美術館(東京)、広島市現代美術館(広島)、せんだいメディアテーク(宮城)等

<海外>

「第9回上海ビエンナーレ: REACTIVATION」上海当代芸術博物館(中国)、「Project Daejeon 2012: Energy」テジョン市立美術館(韓国)、「Get Up, Stand Up」シアトル美術館(米国)、「Double Vision: Contemporary Art from Japan」モスクワ市近代美術館(ロシア)(※モスクワの後、ハイファ美術館(イスラエル)に巡回)、「The Fire that Doesn't Go Out」Richard D. Baron Gallery(米国)、「Life, no Peace, only Adventure」釜山市立美術館(韓国)、「CITY-NET ASIA 2011」ソウル市立美術館(韓国)、「Mildura Palimpsest #8 - Collaborators and Saboteurs」Arts Mildura(オーストラリア)、「Invisibleness is Visibleness: International Contemporary Art Collection of a Salaryman— Daisuke Miyatsu」台北当代芸術館(中国)、「第29回サンパウロビエンナーレ」(ブラジル)、「Asia Art Award」SOMA Museum(韓国)、「Urban Stories: Xth Baltic Triennial of International Art」Contemporary Art Center(CAC)、ヴィルニス(リトアニア)、「KITA!!: Japanese Artists Meet Indonesia」ジョグジャ・ナショナル・ミュージアム(インドネシア)等

受賞歴:

2007年「新・公募展2007」広島市現代美術館賞(大賞)

パブリックコレクション:

国際交流基金、森美術館、金沢 21 世紀美術館、東京都現代美術館、アジアソサエティ美術館(アメリカ)、クイーンズランド州立美術館(オーストラリア)

キュレーター

高橋 瑞木 (たかはし みずき)

水戸芸術館現代美術センター主任学芸員

早稲田大学大学院美術史専攻卒業後、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院MA修了。森美術館準備室を経て水戸芸術館現代美術センター勤務。これまで主な展覧会に「KITA!! Japanese Artists Meet Indonesia」(2008年、インドネシア、国際交流基金主催)、「BEUYS IN JAPAN:ボイスがいた8日間」(2010年、水戸芸術館)、「新次元—マンガ表現の現在」(水戸、ソウル、マニラ、ハノイに巡回、国際交流基金主催)、「高嶺格のクールジャパン」(2012年、水戸芸術館)、「ダレン・アーモンド 追考」(2013年、水戸芸術館)など。編著書に「じぶんを切りひらくアート」(フィルムアート社)。

広報用画像



下町のパラドックス  
2014  
Chim↑Pom



It's the wall world – バングラデシュ  
2014  
Chim↑Pom



photo: Leslie Kee

●主催者・展示に関するお問い合わせ: 国際交流基金 文化事業部アジア大洋州チーム (担当: 武田)  
Tel: 03-5369-6062 / Fax: 03-5369-6038  
●広報用画像・取材に関するお問い合わせ: 平昌子 (TAIRA MASAKO PRESS OFFICE)  
Tel: 090-1149-1111 / E-mail: masako@tmpress.jp